

## 高齢者 保健事業と介護予防の一体化 『フレイル予防事業の課題と目標』

当市の健康課題	短期目標(1～3年)	中・長期目標(5～10年)	目的
<p>A)「高血圧」からつながる「脳梗塞」患者数、及び医療費が、同規模市と比較し、有意に高く増加傾向。高血圧からの重症化予防が課題。</p> <p>B)「筋骨格」の医療費、患者数ともに多いが、その内、骨折等による入院医療費が、同規模市と比較し有意に高い。介護保険申請理由の「転倒・骨折」の割合も増加している。身体運動機能の向上、転倒骨折の予防が課題。</p> <p>C)介護保険申請理由では、「高齢による衰弱・虚弱」が最も多い。高齢者の虚弱の理由として、低栄養や口腔機能の低下、基礎疾患の悪化などが考えられる。個別の健康課題を把握し、個別予防支援、及び広く予防の普及啓発が必要である。</p>	<p>A、C-1)後期高齢者健診、歯周病検診受診率の向上。</p> <p>A、C-2)健診結果、要医療者における医療未受診者割合の減少。</p> <p>B-1)運動機能の向上(握力・足趾力)。</p> <p>B-2)高齢者質問票の健康状態について、「よい」「まあよい」と回答する者の割合が増加。</p> <p>C-1)低栄養疑い(やせ)の者の割合が減少。</p> <p>C-2)高齢者質問票の「固いものが食べにくくなった」と回答する者の割合が減少。</p>	<p>要介護状態を予防し、自立した生活を続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折による入院医療費の減少。</li> <li>・要介護認定率の維持、低下。</li> <li>・要介護度3以上の重度の割合減少。</li> </ul>	<p>健康寿命の延伸 (不健康期間の短縮)</p>

	取組事業	目的	対象者 《参考:R2 人数》	事業概要
(閉じこもりがちで心配な人への訪問) ハイリスクアプローチ	低栄養状態の者への個別訪問	低栄養状態の者に対し、訪問による個別指導を実施し、生活習慣を見直すことで、低栄養の改善を図る。	BMI20 未満かつ前年度健診時より2 kg以上体重減少があった者。 《75 歳以上 約 25 人》	訪問し、生活状況や健康状態を把握した上で、栄養指導を行い、また必要に応じて医療やサービスにつなぐ。
	医療未受診者訪問	生活習慣病の重症度が高い者を、必要な医療受診につなげ、重症化を予防する。	健診受診者において要医療判定かつ重症度が高いが医療未受診の者。 《75 歳以上 約 10 人》	訪問し、生活状況や健康状態を把握した上で、必要な医療やサービスにつなぐ。
	生活習慣病ハイリスク者訪問	血圧および糖尿病コントロール不良者への保健指導を行うことにより、生活習慣病の重症化、要介護状態を予防する。	主治医から紹介された者、または生活改善が必要な者。 血圧 160/100mmHg以上、HbA1c 8.0%以上、尿蛋白 2+以上、eGFR30 未満(いずれかに該当する者) 《75 歳以上 約 20 人》	訪問し、病気の治療・服薬状況、生活状況や健康状態を確認し、必要な保健・栄養指導を行う。必要時医療連携を行う。
(フレイル予防の啓) 集団アプローチ	フレイル予防事業	生活機能の低下に気づく機会を作り、生活習慣の改善、フレイル予防実践につなげる。 運動機能、口腔機能、低栄養の予防を重点に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する団体等へ出前講座</li> <li>希望する公民館事業と共催実施</li> </ul>	医療専門職が通いの場や高齢者が集う場所に出向き、フレイルチェック、体力測定、咀嚼力チェックを実施。フレイル予防の健康教育を行う。